

静岡県の学校図書館

平成 27 年 9 月 発行
静岡県総合教育センター
生涯学習推進室

学校図書館を

積極的に利用しよう

～授業で学校図書館を

活用しよう～

学習指導要領では、学校図書館の活用について以下のよう
に示されています。

「学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、児童
(生徒)の主体的、意欲的な学習活動や読書活動を充実する
こと。」 「小・中・高等学校学習指導要領」より

学校図書館については、教育課程の展開を支える資料センタ
ーの機能を発揮しつつ、①児童が自ら学ぶ学習・情報センター
としての機能と②豊かな感性や情操をはぐくむ読書センター
としての機能を発揮することが求められる。(中略)これらを
司書教諭が中心となって、児童や教師の利用に供することに
よって、学校の教育課程の展開に寄与することができるように
するとともに児童の自主的、主体的な学習や読書活動を推進す
ることが要請される。

「小・中・高等学校学習指導要領解説(総則編)」より

「学校図書館活用推進研修」 平成 27 年 8 月 3 日 会場：静岡県総合教育センター

小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の司書教諭を対象とした推薦研修が行われました。この研修は、司書教諭が教育活動において学校図書館活用の中心的役割を果たし、学校図書館を意図的・計画的に活用するための資質・向上を図ることを目的としています。「学校司書」も法律で明文化され、司書教諭と学校司書が連携することの重要性が言われる中、司書教諭の役割がますます大きくなってきました。

今回の研修では、午前に静岡大学教職大学院教授の村山功氏に「教育課程の展開に寄与する学校図書館の活用」と題して御講演をいただきました。講演では、現在の子どもの学習状況に触れ、授業で取り入れられている学校図書館を活用した学習は、個人の調査学習が多く、個々の活動だけに陥りがちであるとの問題が指摘されました。このような状況を改善するために、課題の発見・解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習(いわゆる「アクティブラーニング」)の充実を目指し、学校図書館を有効に活用していくことが大切であるとのことでした。今後、司書教諭は学校の中心となって学校図書館の資料等を充実させ、授業と学校図書館をつなぎ、子どもたちの学びをあらゆる面から導いていくことが求められます。

午後は、お二人の先生に御講義・演習をしていただきました。

東京学芸大学講師の小林路子氏は「情報活用能力を育てる学校図書館活用スキル」として、「調べ学習」の演習を行ってくださいました。自ら課題を見つけ、調べ、分析していく中で、子どもたちは言語力、思考力、表現力などを身につけていきます。その中で、子どもたちに調べさせるだけでなく、いかに簡単に授業を組み立てるかのスキルを教師が身につけるべきだと、御示唆いただきました。

一方、国士舘大学教授の桑田てるみ氏は「学校図書館を活用した探究的な学習」として、具体的な事例をいくつか挙げ説明してくださいました。午前に行われた村山氏の講演でも取り上げられた「ジグソー学習」の演習を行ったり、「調べ学習」と「探究学習」との違いを明確に示していただいたりと、参加者にとって実り多い研修となりました。



【調べ学習をもとに話し合う参加者】

「今日から実践！学校図書館基礎研修」 平成27年7月7日会場：静岡県総合教育センター

本研修は、県立高等学校・特別支援学校の学校司書や学校図書館業務を担当している教職員を対象とした希望研修です。この研修は、学校図書館活用教育の充実を図るための学校図書館づくりについて技術・スキルを身に付け、担当者の資質・向上を目指す目的で行われています。今回は、その研修会において発表された、茨城県立水戸第二高等学校の勝山万里子係長と県立磐田南高等学校の青島玲子教諭の実践例を紹介します。

校内情報センターを目指して

茨城県立水戸第二高等学校の勝山万里子係長の発表は、「あなたの学校の図書館はどの段階？」という問いから始まりました。

今から約20年ほど前、初めて学校司書として任された学校の図書館は誰も使っていない「倉庫」だったそうです。その倉庫であった図書館を読書センターに、さらに学習センターに、そして校内の情報拠点に変えていった勝山先生の取り組み。誰でも最初は何から手をつけていいかわからないものです。勝山先生は、まず先進校を視察し、身近な物から片付け、ディスプレイを始め、人目を引く図書館作りを進めたそうです。生徒たちが自然に集まる図書館、手にとって読んでみたくなる図書の配架。一つずつ、まずはやってみよう！という思いから勝山先生の図書館作りは始まったそうです。今では生徒たちが誰でも行きたくなる、読んでみたくなる、学んでみたくなる、そんな学校図書館になっているそうです。研修当日は、実際にディスプレイに使えるものもたくさん用意していただき、参加者にとっては素晴らしいお土産がたくさんできました。



【勝山先生自作のディスプレイ】

やってみよう！「本・de・コミュニケーション」

1月号でも紹介した静岡県立磐田南高等学校の青島玲子教諭の取り組みを参加者と共に演習しました。最初に2人組のペアを作ります。そこでお互いに紹介したい本をじっくり紹介します。本の内容、作者の思い、挿絵について・・・。

時間は1分間。その後、その本についての質問をしてお互いに内容をさらに理解する、という流れで行います。

当日の演習では、青島先生の初めにするちょっと変わった挨拶に思わず笑みがこぼれ、参加者はみなリラックスした雰囲気での紹介をすることができました。参加者は自分の決めた本について熱く語っていました。本の紹介はもちろん大切ですが、いかに相手に自分の考えを話せるか、そしてより多くの人と関われるか、1冊の本を通してコミュニケーションを図る、それが「本・de・コミュニケーション」です。是非、みなさんの学校でも実践してみてください。



【互いの本を紹介し語り合う参加者】

秋の読書週間

第69回読書週間標語

『いつだって、読書日和』

10月27日～11月9日まで



秋の読書週間が始まります。
「あなたのお気に入りの1冊」
を探しに

図書館へ Let's Go!!

